

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	高知県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	梶原町立梶原小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	12
児童数	25	20	19	25	17	18	2	126	

研究の概要

1. 研究主題

基盤学力の向上と基礎学力の定着 - 熱中する学習、学び合う学習 -
--------------------------------------

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年算数 平成14年度に計算力向上の取り組みを実施し、ある程度の成果を生み出したが、その成果の上に立って、更に計算力を向上させるため。 全学年国語 平成14年度から取り組んでいる漢字・作文・読書の取り組みを継続し、国語力の基盤を向上させるため。 国語(2学年、4学年難聴学級) 朗読・作文等の表現活動を通して、国語科に対する関心・意欲を高めると共に、国語科の主体的な学び方を身につけさせる。 算数(1学年、5学年専科教員、6学年) 問題解決学習の学習パターンを身につけさせることで、主体的に学習に挑み学び合いを通して自力解決をする力を身につけさせる。 社会(5学年) 問題解決学習の学習パターンを身につけさせることで、主体的に学習に挑み学び合いを通して自力解決をする力を身につけさせる。 理科(3学年、4学年) 問題解決学習の学習パターンを身につけさせることで、主体的に学習に挑み学び合いを通して自力解決をする力を身につけさせる。 全学年の取り組みは、全校共通取り組み 国・算・社・理の各教科の研究は、各人の研究教科を決めて、1人1教科研究という形で教師の指導力向上に努める。
--

(2) 年次ごとの計画

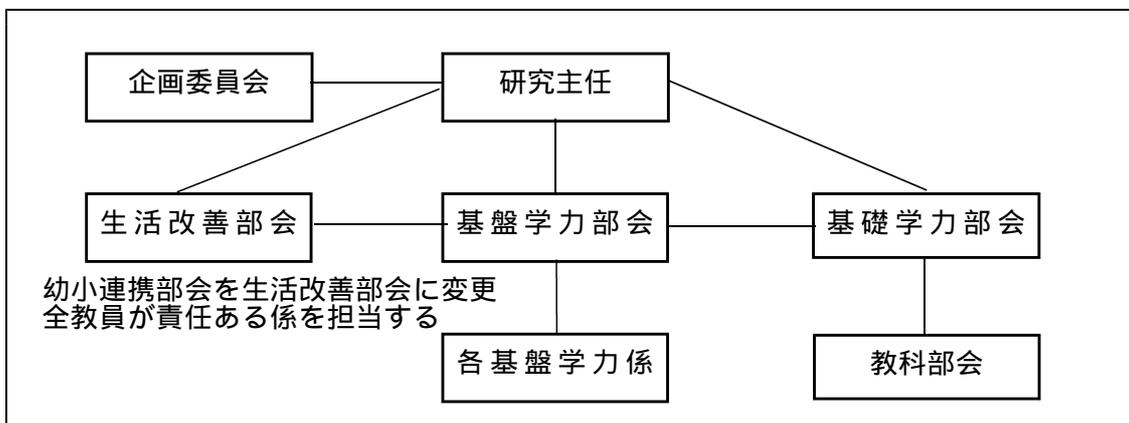
平成14年度	テーマ 「基盤学力の徹底と基礎学力の充実」 - ワクワケドキドキ大好き勉強 - 研究の見通し 生きる力は、克己心・指導力・忍耐力・想像力・社会性等の心の力の総和が、大きければ大きいほど逞しいものだと考える。そこで、本校では、これらの心の力を基盤学力・基礎学力を中心とした取り組みを通して育むことで、教育目標「生きる力の創造」の具現化が図られるであろうと仮説を立てた。そして、研究推進にあたっての教師の基本姿勢についても、指導の連続性・系統性 協働意識 教師の後ろ姿を見せる 指導法の改善 集中指導 仲間づくり等を重視することが、子どもの学びを変える重要な要素だという仮説を立てて研究を推進することとした。 研究内容・方法 1、基盤学力の徹底
--------	--

	<p>計算力（ドキドキタイム）、漢字力、作文力、読書力の向上          学習ルールの徹底          家庭学習の定着          個別指導の努力          評価方法の工夫          計算についての習熟度別学習の時間設定（ワクワクタイム）</p> <p>2、基礎学力の充実          一人1教科研究          算数・国語・理科・体育・図工・音楽          研究授業の充実          年間1人3回の研究授業実施          授業評価の重視          指導案の精密化による指導法の改善          講師招聘          研究教科についての専門家を招聘する</p>
--	---

平成15年度	<p>テーマ          「基礎学力の向上と基礎学力の定着」          - 熱中する学習、学び合う学習 -</p> <p>研究の見通し          習熟度に応じた少人数指導とTT指導を組み合わせることで、低学力の児童の基礎学力を向上させることができる。          基礎学力の定着している児童は、基礎学力の継続練習で基礎学力の学習基盤がいっそう強固なものとなる。          一人1教科研究による教師の授業力向上は、児童の学習意欲向上につながる。          教師の得意教科の交換授業により質の高い授業を提供できる。          学習集団づくりは、子どもたち同士の関わり合う授業の質を高める。          生活改善、幼小連携教育の推進により、学習意欲を支える集中力・克己心・社会性・興味・関心・意欲・創造性・思考力等の心の力の基盤を確かなものにすることができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>1、研究内容          基礎学力          計算・漢字・作文・読書・家庭学習・学習ルール          ワクワクタイム・ドキドキタイム          朝読書・短作文タイム          基礎学力          一人1教科研究・・・算数・国語・社会・理科          交換授業・・・体育・図工・音楽          学習集団づくり          TT授業          評価研究          幼小連携教育          生活改善          交流活動          相互参観          合同研究会</p> <p>2、研究方法          基礎学力部会・基礎学力部会・幼小連携教育部会の三部会で研究を推進する。          一人年間3回の研究授業を実施する。          6月・・・一斉公開研究授業          7月～11月・・・個別研究授業          11月下旬 or 12月上旬・・・一斉集約公開授業          体育・音楽・図工についての交換授業を実施する。          一人1教科研究の研究教科は、国語・算数・理科・社会とし、1教科の研究者数は2名とし、2名で教科部会を構成する。          研究内容 については、生活改善が困難な児童が多いため、その中でも特に生活改善を大きな柱とする。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 「基盤学力向上と基礎学力の定着・発展」 - 熱中する学習、学び合う学習、発展する学習 -</p> <p>研究の見通し 習熟度に応じた少人数指導とTT指導を組み合わせることで、低学力の児童の基盤学力を向上させることができる。 基盤学力が向上した児童は、基礎学力の定着に向けて、熱中する学習・学び合う学習ができるようになり、その学習を発展させることが可能になる。 児童の学習意欲の高まりと教師の授業力が高まれば、授業の質は高度なものとなる。 学習集団が育てば、子どもたち同士の関わり合いがいつそう響き合うようになり、追究する力・発展させる力が大きなものとなる。 生活改善、幼小連携教育の推進により、学習意欲を支える集中力・克己心・社会性・興味・関心・意欲・創造性・思考力等の心の力の基盤を確かなものにすることができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>1、研究内容 基盤学力 計算・漢字・作文・読書・家庭学習・学習ルール ワクワクタイム・ドキドキタイム 朝読書・短作文タイム・漢字タイム 基礎学力 研究教科・・・算数・国語・社会・理科 交換授業・・・可能な範囲で実施する。 学習集団づくり TT授業 評価研究 生活改善 生活改善 幼小連携教育</p> <p>2、研究方法 基盤学力部会・基礎学力部会・生活改善部会の三部会で研究を推進する。 一人年間3回の研究授業を実施する。 4月～5月・・・教科別に研究の進め方の学習会を行う。 6月～7月・・・教科別研究授業 9月～10月・・・教科別研究授業 12月上旬・・・研究集約公開授業 各教科について可能な範囲で交換授業を実施する。 1人1教科研究の研究教科は、国語・算数・理科・社会とし、1教科の研究者は数は2名とし、2名で教科部会を構成する。</p>
--------	--

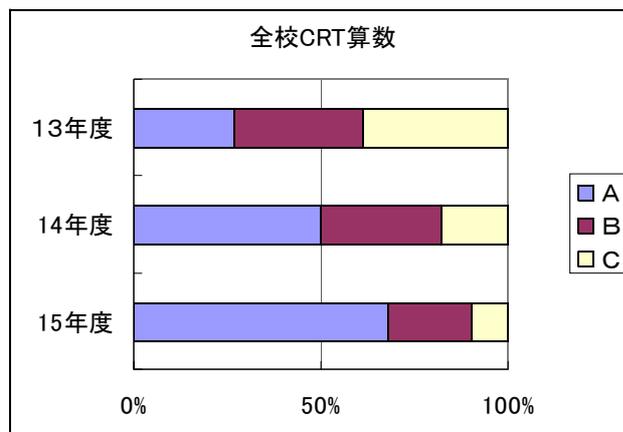
(3) 研究推進体制



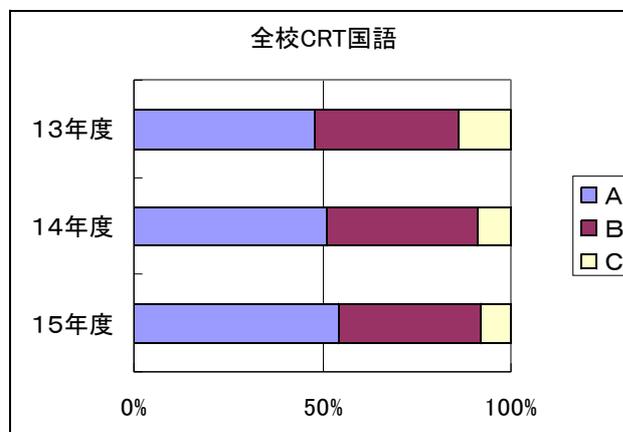
平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

CRT学力検査から  
 右のグラフは、算数と国語のCRT学力検査の結果について平成13年度、14年度、15年度を比較したものである。(15年5月実施)  
 これによると算数においては、課題であったCランクの児童数が激減すると共に、Aランクの児童数が70%を占めるようになってきている。  
 国語については、急激な向上はないものの、年度が進むにつれて徐々に成果が出てきていると言える。



中間集約公開授業感想から  
 平成15年度の成果は平成16年2月下旬に実施予定の学力検査の結果を待たなければならぬが、平成15年1月21日に実施した中間集約公開授業に対する外部参観者の学感想を見ると、子どもたちの学習に向かう姿勢・学習内容・教師の指導方法について下に示したように良好な評価をいただいたので、成果は上がりつつあると言える。



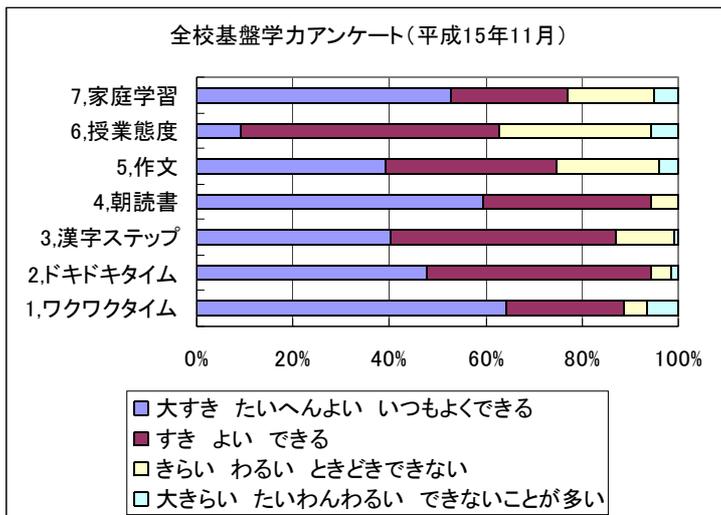
1年生と6年生の授業を見せていただきました。両学年とも、子どもと共に学ぶ先生方の素晴らしい実践を見せていただき、とても勉強になりました。子どもひとり一人に寄り添い、個を大切にしている姿に、本当に子どもを大切にしているなあと感動しました。先生も授業を楽しんでいる姿でしてました。

6年生の授業は、さすが6年生と思わせる授業で、見ている私も一緒に学び感動しました。子どもたちがよく考え、良く動き、ダイナミックに授業を展開していました。先生が、日頃から子どもたちと共に地道に取り組む育ってきたものがよく分かりました。日頃の積み重ねがいかにか大事かがよく分かる授業だったと思います。

子どもたちが書いたお手紙の内容を読んでみたいと思いました。細かく読み取りができていたので、朗読の時もそれを意識していい読みができていて素晴らしいと思いました。  
 低学年のうちから、発表力を身につけさせることの重要性を再認識させられました。心情曲線の利用などのアイデアも生かされていました。

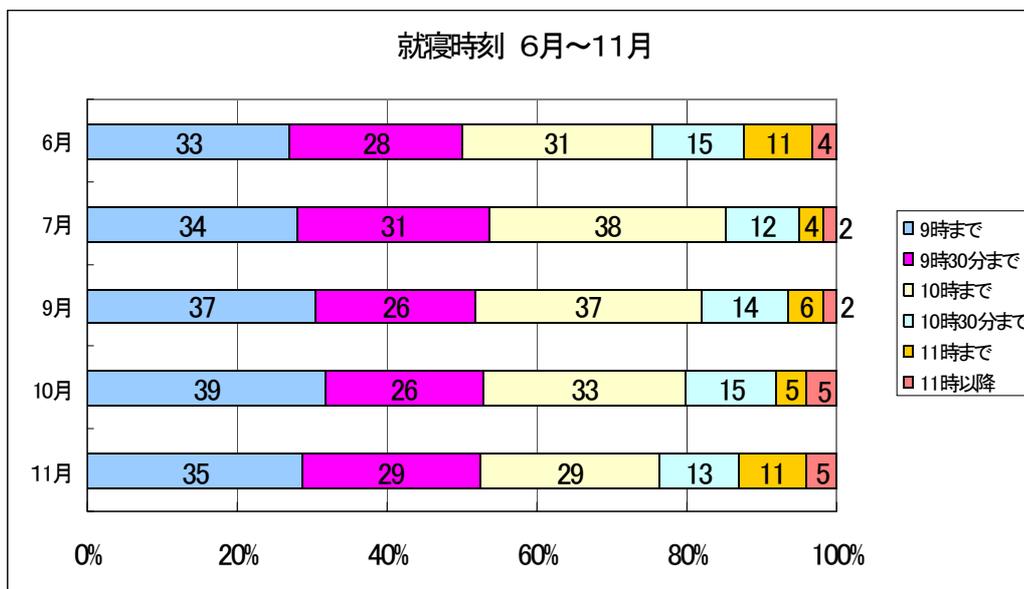
先生のでいいいな話し方、明るさ、元気、表情の豊かさが教室いっぱいには広がり、それが子ども達にも伝わり、生き生き、のびのび学んでいたのに驚きました。ブロックを操作し、図に書いたりノートに整理したりする学習の様子を見ると、梶原小学校の取り組みが、子ども達に定着していることが伝わってきました。

基盤学力アンケートから  
 本校が、学力向上の  
 うえでは基盤となるもの  
 として帯時間を設定  
 して取り組んでいる漢  
 字ステップ・朝読書・  
 ドキドキタイム(計算)  
 ・作文等と学習姿勢の  
 基盤としての家庭学習  
 ・授業態度についての  
 アンケート結果を見ると、  
 全般的にほぼ80%以上  
 の子どもがプラス評価を  
 しており、子どもたちの  
 学習に向かう姿勢は向上  
 してきていると思われる。  
 しかし、家庭学習・授業  
 態度・作文の3項目につ  
 いては、プラス評価が80%  
 を切っているため、課題  
 も残っているといえる。

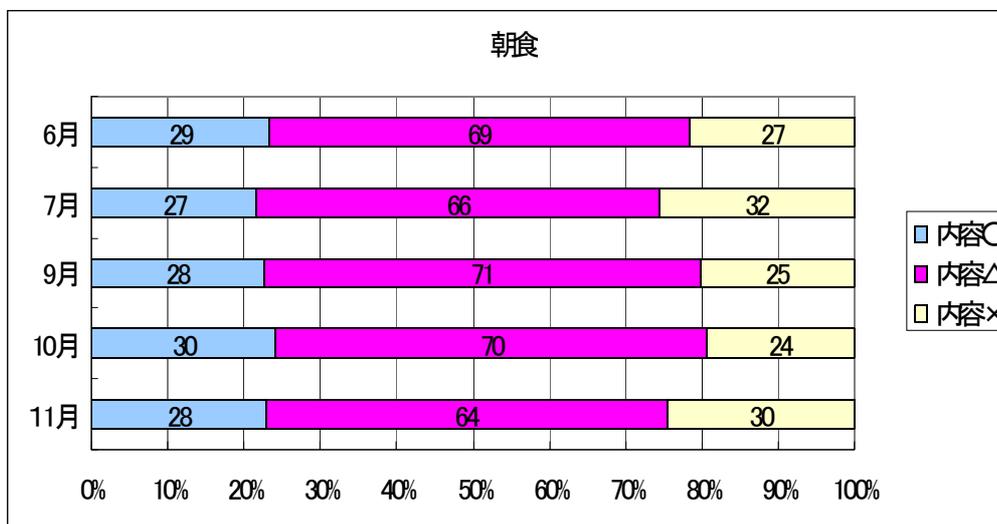
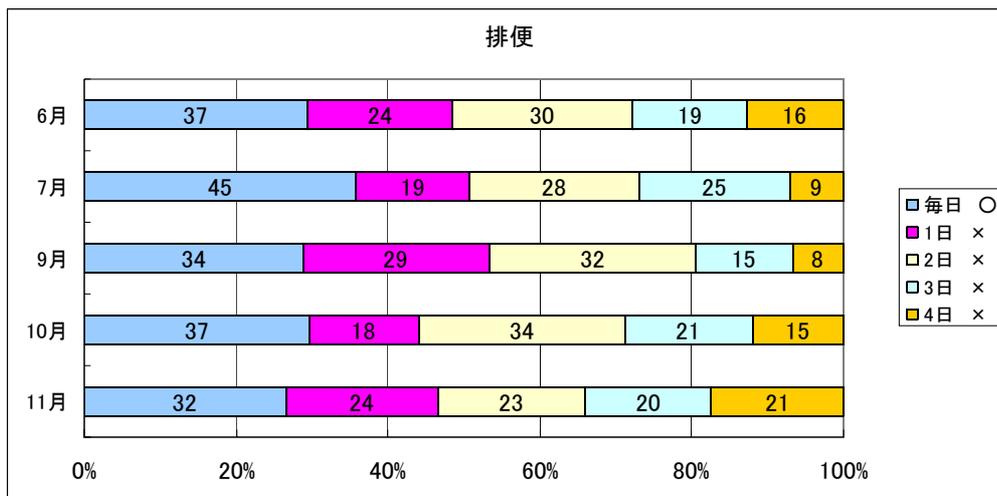


## 2. 今後の課題

生活点検から  
 本校は、生活が学習を支える基盤になると考え、平成14年度より毎月、就寝時刻・起床時刻・朝食の摂取・洗顔・排便等について調査を実施しているが、この結果がはかばかしくないのが現状である。  
 親への呼びかけ、PTA実践目標としての取り上げ、子どもへの指導等、様々な手だてを講じているが、大きな改善は見られない。家庭学習や学習態度が不十分な子どもの多くは、この生活面の課題が大きい子どもたちである。これまでの学力向上の取り組みで一定の成果は上がってきてはいるものの、根本となる生活の改善が図られていないので、砂上の楼閣を築いているという感がある。  
 本校の学力向上を本物にするためには、生活基盤の確立が欠かせない条件であると言える。



就寝時刻  
 全体的に夜型となっている。特に約20%の子どもが夜遅くまでゲームやテレビ漬けになっていて、改善がきわめて難しい状態にある。この夜型生活は、翌朝の起床時刻に影響するだけでなく、一日のエネルギーの基となる朝食の摂取や健康な体の基である排便の不規則さにも大きく影響している。



#### 排便と朝食

排便には生活の乱れが典型的に現れている。毎日きちんと排便のある子どもは25%程度しかおらず、それ以外の子どもは排便のない日があることが恒常的に続いている。特に、1週間の間にほとんど排便がない子どもが20%程度を前後している。朝食についても同様で、約20%の子どもが十分な朝食がとれていない。

#### CRT学力検査結果から

成果としてCランクの児童数が大幅に減少したことをあげたが、どうしてもCランクを抜け出すことのできない児童が各学年に1～2名存在している。この子どもたちに対しては、基盤学力の取り組みや授業において、個別指導やTT指導で対応しているが、その場で成果が出て来ても次の日は忘れてしまっているという定着の困難さがある。この児童達への指導法や学校としての組織的な指導のあり方について改善を加えていくことが必要である。

以上のことから平成16年度は、下記の事項について重点的に取り組むことが重要である。

生活改善部会を中心に、生活改善を図る取り組みを強力に推し進める。特に、食生活改善と就寝時刻改善に取り組む。

恒常的な低学力の児童への個別指導のあり方・TT指導のあり方等、学校としての組織的な指導法を研究する必要がある。

基盤学力の取り組みでは、作文・家庭学習についての指導の改善が必要である。特に家庭学習については、家庭での親子の触れ合いの深化という点からも力を入れる。

1人1教科研究により指導法が改善され、「熱中する学習、学び合う学習」ができてきているが、学力を今以上に向上させるためには、さらなる指導法の改善が求められる。教師の協働体制を重視しながら、日常授業に生きる指導法を追究していく。  
 指導法の改善だけでなく、あらゆる事項の改善については、形成的評価によって途中経過を把握しながら具体的な手だての改善を図っていくことが重要である。外部から厳しい評価を受けること・保護者の評価を通して子どもの実態を視点を変えて掴むこと・子どもの評価を通して子どもの授業に対する思いを把握すること等、多様な評価を効果的に活用して指導に生かしていく。

### 学力等把握のための学校としての取組

調査事項	調査の目的	実施内容	調査時期
CRT学力検査	国語・算数の到達度調査	算数・国語	5月上旬
NRT学力検査	国語・算数の到達度調査	算数・国語	2月下旬
学習アンケート	各教科についての好悪調査	算・国・社・理	5月、11月
基盤学力アンケート	基盤学力についての意識調査	基盤学力7項目	5月、11月
学習ルール評価表	学習ルールの定着度調査	学習ルール9項目	学期に1回
授業評価システム	児童からの授業評価	関心・意欲・理解度	毎月一回、研究授業日
授業評価表	外部評価・相互評価	指導方法・学習規律等	研究授業日
生活実態調査	生活実態の把握調査	就寝時刻・排便等6項目	毎月1回1週間

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

12月上旬に集約公開授業を行い、県下に案内状を配布する。  
 研究集録を作成し公表する。  
 ホームページに研究の概要を掲載する。( <http://www.kochinet.ed.jp/yusuhara-e/> )  
 県及び教育事務所管内の研究協議会において研究成果についての情報交換を行う。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                   13～18学級                     19～24学級  
                                   25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                   一部教科担任制                 その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                   生活                       音楽                       図画工作                 家庭  
                                   体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無